8　芸術（書道）

学校番号	１０１５

平成３１年度　芸術科（書道）

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「書Ⅰ」　（光村図書出版）						
副教材等	高校硬筆の練習　（教育出版）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

・小学校、中学校の書写の授業で学んだことを発展させて、芸術科書道では用具用材の違いによる表現の違い等を学びましょう。
・臨書と創作という二つの学習方法を理解し、書体の変遷をふまえ、特に楷書・行書・仮名の書を学び、筆の弾力を使いこなし、自分で工夫して書くことが出来るようになることをめざします。
・身近に飾れる作品を作ることで達成感を味わい、書を愛好する心情を育てます。

2 学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	観察 ワークシート ポートフォリオ	観察 ワークシート ポートフォリオ 提出作品	観察 ワークシート ポートフォリオ 提出作品	観察 ワークシート ポートフォリオ 提出作品

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

月	題材名	学習内容・活動	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期中間	・書写と書道 ・漢字の書 楷書・行書	・国語科書写と芸術科書道 ・用具用材・書体 ・臨書の意義・用筆法	○			○	a:書写と書道の類似点・相違点、書体について興味を持ち、今後の学習に意欲的に取り組もうとしている。 b:国語科書写での基礎・基本を踏まえ表現を工夫している。 c:姿勢や執筆法の基本を身に付け表現している。 d:書体について理解し、さまざまな書のよさを味わっている。	観察 ワークシート ポートフォリオ 提出作品
前期期末	・姓名印づくり	・自分の名前調べ (各書体) ・名前の1文字 白文印と朱文印の制作	○		○	○	a:名前の各書体調べを通じて書体の変遷について関心を持ち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている c:篆刻における分間布白を理解し、表現を工夫している。 d:様々な石や銅の印影を鑑賞し、そのよさや美しさを味わっている。	観察 ワークシート ポートフォリオ 提出作品
後期中間	・漢字かな交じりの書	・漢字仮名交じりの書の表現のポイント ・創作(カレンダー作品)	○	○		○	a:墨色や墨量について関心を持ち、積極的に表現技法を高めようとしている。 b:楷書・行書の筆使いについて理解し、表現を工夫している。 c:仮名の書との調和を考え、表現している。 d:墨色・墨量・線質・構成を理解し、そのよさを味わっている。	観察 ワークシート ポートフォリオ 提出作品
後期期末	・仮名(ひらがな) ・鑑賞レポート	・かなの歴史と変遷 ・ひらがな単体 ・淡墨によるひらが な連綿 ・蓬莱切臨書 ・大阪府高等学校書道展	○ ○	○		○	a:仮名の美 (連綿、散らし書きなど)について関心を持ち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている b:基礎的・基本的な連綿や散らし書きの技法を身に付け表している。 d:暮らしの中に書を生かすことを理解し、そのよさや美しさを味わっている。 a:鑑賞を通じて、作者の意図や表現の工夫、よさや美しさに共感する気持ちを持ち、文章にまとめることができる。	観察 ワークシート ポートフォリオ 提出作品 レポートの内容